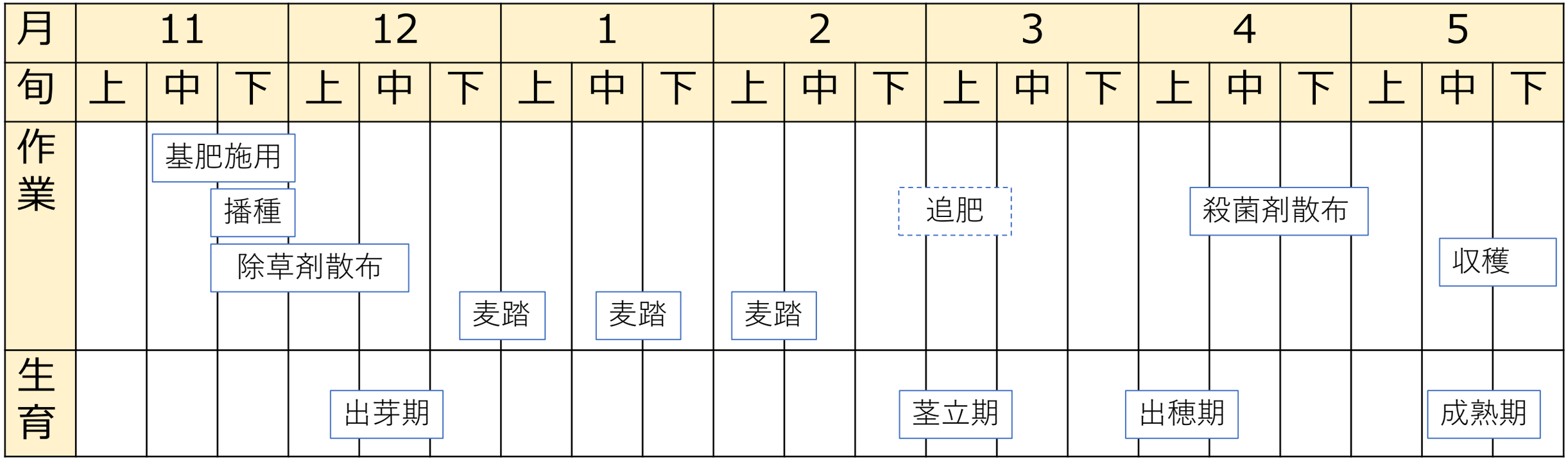
ニューサチホゴールデン　栽培暦

作成日：令和８年11月
埼玉県農業技術研究センター

○小麦に比べて気温の影響により茎立期や出穂期が前後しやすいので、よく観察し適期作業を！！！



品種特性（彩の星と比べて）

○出穂期は2日程度、成熟期は1～2日程度遅い。
○稈長、穂長は同程度～やや長く、穂数は同程度～やや多い。
○千粒重はやや重く、収量は多い。
○側面裂皮粒が発生しやすい。
○穀皮が薄く、剥皮が発生しやすい。

ほ場準備

○土壌診断を行い、pH(H_2O)6.5以上に矯正。
○耕深は15㎝を目標とする。
○明渠を掘削し排水路へ連結する。
○苗立や除草剤の効果を確保するため、砕土は丁寧に行う。

播種

○播種時期：11月20日～11月30日
○播種量：5～6kg/10a(苗立100～120本/㎡)
○播種深：2～3㎝
○出芽を揃えるため播種後に鎮圧を行う。

施肥（水稲あと作）

○基肥：窒素成分で7kg/10a程度
《ポイント》
ほ場の地力や堆肥等有機物の施用状況にあわせて増減する。過剰な施肥は倒伏とタンパク質含有率の上昇リスクが高まるため避ける。
○追肥
《ポイント》
地力や前年の品質評価結果通知等を勘案し、追肥の要否を判断する。追肥は窒素成分で2kg/10aを上限とし、高タンパク化を指摘された場合は、全量基肥を基本とする。

麦踏み

○3枚目の葉が出たら実施する。10日～2週間の間隔で茎立期までに2～3回程度実施する。麦踏みは耐倒伏性、耐寒性の向上、分げつの発生促進、過剰な生育の抑制等に効果がある。

赤かび病防除

○収穫前日数に注意して、穂揃期後10日頃に必ず実施する。その後降雨があった場合、1回目の散布から7～10日後に再度実施する。
※農薬により使用可能な収穫前日数が異なるため、必ず使用前にラベルの記載内容を確認する。

収穫・調製

○穀粒水分25%～20%を目標に収穫する。
○早刈りは発芽勢が低下し、刈り遅れると外観品質が低下するため計画的に作業を行う。
○収穫時は試し刈りを行い回転数に留意する。
○急激な乾燥を避け、調製も丁寧に行う。
○収穫適期の目安
成熟期後日数：3～6日
大部分の穂が黄褐色に変わり、穂首が90度に湾曲した穂がほ場の80%になった頃